

# 長崎大学病院 医療教育開発センター救急医療教育室 (平成26年4月～7月までの実績)

## 第1回 救急医療教育室 評価委員会 平成26年9月17日開催 (以下抜粋資料)

### 確認事項

- 1) 内規
- 2) 救急医療教育室概要の背景と目標

### 報告事項

- 1) 目標に対する結果
- 2) 今年度予算案について

### 質疑応答

- 1) 協力病院へのアンケート結果

出席者:別紙あり

## 長崎大学病院 医療教育開発センター 救急医療教育室の設立背景と目標

### ●背景

1. 長崎県の初期・二次救急医療施設は、救急医療より次々と撤退する危機的状況にある。
2. 原因のひとつとして、地方から研修医が都市部へ流出してしまった事が大きいと考える。
3. 特に小・中規模病院での研修希望数は少なくスタッフ医師の高齢化もあり、救急外来で働く医師が疲弊している。
4. 大学病院の性質上、プライマリケアのファーストタッチがあまりできないという事が、大学病院での研修希望の伸びを抑えている可能性も高い。

### 目標の達成・結果

目標1:研修医教育における初期及び二次救急医療の教育の充実を図る。

1-1:長崎大学基幹型の研修医100%に、輪番病院での救急業務を経験させる。

また、長崎大学以外の研修医の指導も推進する。

1-2:長崎大学基幹型の研修医80%に、救急学会の救急初期対応の資格であるICLSを取得させる。また、長崎大学以外の研修医の取得も推進する。

1-3:長崎大学基幹型の研修医全員100%に、厚労省が示す研修の救急関連の到達目標をクリアさせる。

目標2:シミュレーションセンターの運営管理を行う。

2-1:全職員のシミュレーションセンター利用を促進し、前年比10%とする。

2-2:地域に勤務する医師や看護師をはじめ、すべての医療職の利用を促進し、年間12回以上の地域の医療職が参加できるプログラムを主催する。

2-3:救急に関連した、研修医教育プログラムを作成し、年間12回以上主催する。

目標3:医学生教育を通じて、マッチングの促進を行う。

3-1:済生会長崎病院で学生へ救急医療教育室の説明を行う。

3-2:マッチングの説明会へ、年に1回以上参加する。

目標4:急性期パートナーシップ連携を強化する。

4-1:済生会長崎病院の急性期パートナーシップによる患者を5%増やす。

4-2:長崎記念病院の急性期パートナーシップによる患者を5%増やす。

目標5:救急患者数の増加

5-1:済生会長崎病院の救急患者を10%増やす。

5-2:済生会長崎病院の救急患者受け入れシステムを構築する。

5-3:長崎記念病院の救急患者を3%増やす。

目標6:教育関連学会

6-1:医学教育学会にて発表する

6-2:救急関連学会にて研修医の発表を促進する。

長崎大学病院 医療教育開発センター 救急医療教育室 評価委員会委員

	機関名	役職	氏名	備考
1	長崎大学病院	病院長	河野 茂	
2	済生会長崎病院	院長	澄川 耕二	
3	長崎記念病院	理事長	福井 洋	
4	医誠会病院 近畿大学医学部 救急医学	病院長 客員教授	丸川 征四郎	
5	長崎県福祉保健部医療人材対策室	室長	村田 誠	
6	長崎大学病院	循環器内科長	前村 浩二	
7	長崎大学病院	救命救急センター長	田崎 修	
8	長崎大学病院	医療教育開発センター長	浜田 久之	
9	済生会長崎病院	事務部長	久保山 雅弘	
10	長崎記念病院	事務部長	福井 洋一郎	
11	長崎大学病院	事務部長	鳥居 時政	
12	長崎大学病院	研修医2年次	井山 慶大	

## 目標1-1

## 研修医の救急業務

H26年4月～9月

(名)

	研修医数	済生会長崎病院	長崎記念病院	合計	割合
平成25年度研修医	16	1	9	10	63%
平成26年度研修医	56	19	13	29	52%
合計	72	20	22	39	54%

## 目標1-2

## ICLSコース受講者数

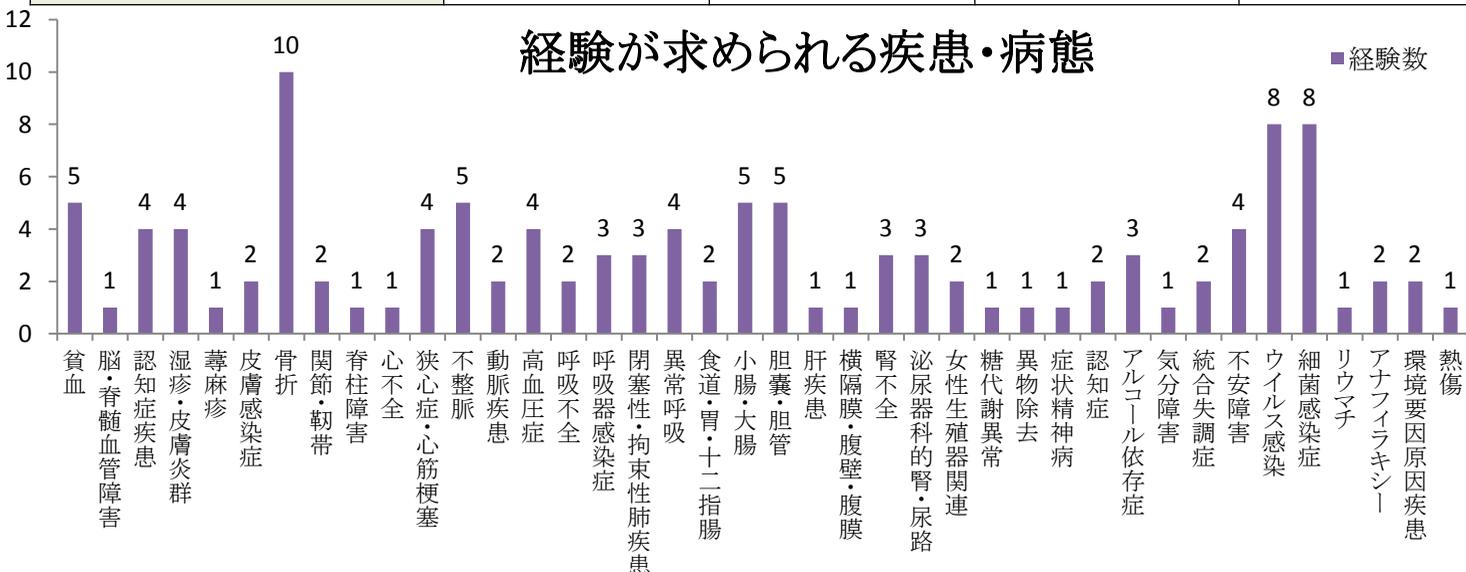
	研修医数	受講者数	受講率
平成24年度研修医	48	7	15%
平成25年度研修医	49	23	47%
平成26年度研修医	57	16	28%

## 目標1-3

## 厚労省が示す研修の到達目標

	到達目標項目数	経験項目数	経験数 (患者数)	研修医1人当たりの患者数
頻度の高い症状	35	26	159 人	7.23 人
基本的な臨床検査	20	12	207 人	9.41 人
基本的手技	19	15	86 人	3.91 人
救急を要する病状・病態	17	14	59 人	2.68 人
経験が求められる疾患・病態	81	40	117 人	5.32 人
救急医療	7	5	80 人	3.64 人
医療記録	8	4	94 人	4.27 人
診療記録	4	2	7 人	0.32 人

### 経験が求められる疾患・病態



## 目標2-1

## シミュレーションセンター利用者数・利用組数

	4月	5月	6月	7月	合計	前年度比率
H25年度利用者数	328	240	348	463	1379	
H26年度利用者数	249	343	612	684	1888	137%
H25年度組数	34	39	45	46	164	
H26年度組数	18	28	68	75	189	115%

## 目標2-2

## 地域医療職が参加できるプログラム

	イベント・行事	対象者	コース	参加人数	平成26年度 実施日	平成26年度 実施予定日
1	薬剤師のためのフィジカル アセスメント講習会	長崎県内薬剤師	全12回コース	24名	7月5日から 始まり 現在5回終了	残り7回
2	大正富山フィジカル アセスメント講習会	長崎県内薬剤師	1日コース	24名	6月8日	10月19日 予定
3	看護部BLS講習会	看護師	昨年度3回	昨年度58名	10回	随時
4	薬剤部BLS講習会	院内薬剤師	昨年度3回	昨年度18名	1回	随時
5	院内職員BLS講習会	院内職員	昨年度37回	昨年度164名	9回	毎週木曜日 実施
6	江平中学校 心肺蘇生講習会	中学生、職員 保護者	毎年1回	今年計112名	7月8日	なし
7	キッズセミナー	小学5.6年生	毎年1回	今年50名	8月11日	なし

## 目標2-3

## 救急に関連した研修医プログラム

	イベント・行事	対象者	コース	参加人数	平成26年度 実施日	平成26年度 実施予定日
1	災害研修	初期研修医 看護師	1日コース	計84名	6月20日	未定
2	ICLSコース	初期研修医	1日コース	12名	6月14日 8月23日	11月1日 2月中旬 (予定)

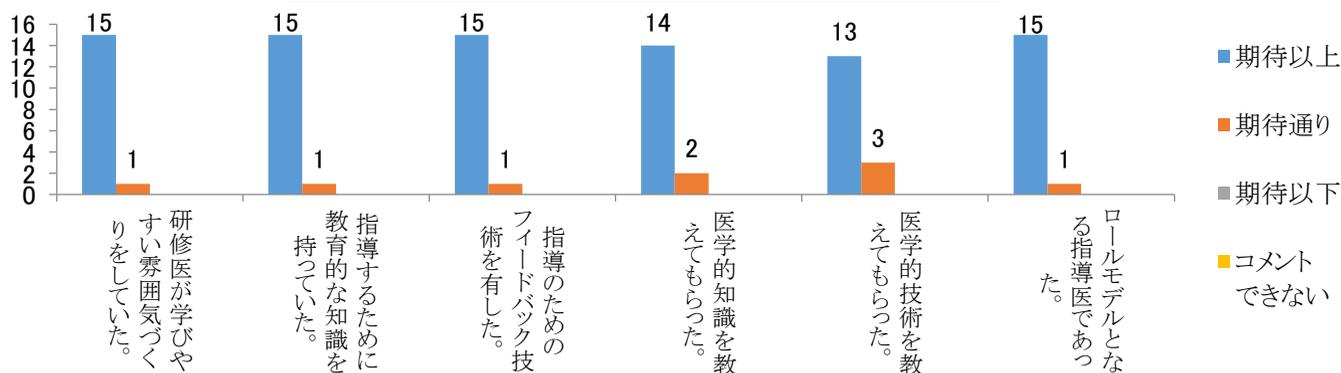
## 目標3-2

## マッチングに対する活動

- 5/10 2014メック病院説明会 福岡で開催 一メジャー&救急スペシャラーに出席  
27名が説明会に参加、  
14名が既卒、  
4名が長崎大学病院を受験した。
- 5/30 長崎大学医学部5年生 白衣授与式  
96名に説明
- 7/7 6年生向けに研修病院を決めたきっかけ  
などを研修医が説明
- 10/16 医学部4年生 外傷治療学講義 (予定)

	既卒	6年次	5年次	4年次	計
参加者	14	3	9	1	27
受験者	4	0	0	0	4

平成26年度7・8月に救急医療教育室を研修した  
研修医へ指導医を評価したアンケート結果(16名)



### (最も良かったこと)

- どのように勉強すればよいのかを教えて頂いて意欲がわきました。
- 指導医が後ろにいて、診察・問診が自分一人の時より怖くなくできたと思う。
- 採血、心電図などの手技、身体所見など初期対応を指導の下、すべて任せてもらった点。
- ウォークインの患者さんの診察をほとんどさせてもらうことが出来た。フィードバックをたくさん頂いた。
- さまざまな患者さんが来たが、どの症例も良くある症例や主訴だったので、対応の仕方等これからとても役に立つだろうと思った。
- カルテの使い方を最初に教えてくれたので見学じゃなくて、自分でカルテを書いたり、検査を出したり、処方出しをさせてくれたこと。
- ソケイヘルニア等、診療で診ることが出来ない疾患を経験できた。
- 大学では経験できない初期・二次救急医療を経験できる。

### (学んだこと)

- 今まで整形外科で診察所見をしたことがなかったが一から指導して頂いた。
- 患者の主訴等を救急隊から聞いた時点ですでに鑑別を挙げ問診、検査の手順を前もって考える必要があること。患者への問診の始め方は時と場合によって適切な方法が異なること。
- 問診の大切さ、救命外来での対応の仕方。
- さまざまな手技、静注用薬剤の使い方、腰痛の鑑別
- 救急の初期対応について、救急外来患者への対応力

### (改善すべき点)

- 病院毎にどの程度の事をするのか前もって知っておきたい。
- ありません。外来研修は自分が回っている科の途中で入ることが多いので大変かと思いますが、必ず自分の身になると思うので今後も希望したいと思いました。

## 目標4

### 急性期パートナーシップ連携

合計	H25年度4月～7月	H26年度4月～7月	増加割合
大学病院へ 転院	98	123	126%
大学病院から 転院	65	57	88%

## 目標5

### 救急患者受入数

合計	H25年度4月～7月	H26年度4月～7月	増加割合
総数	4305	3727	87%
ウォークイン	3373	2808	83%
救急車数	932	919	99%
入院数	1233	1142	93%

## 目標6

### その他広報、医学教育学会での発表

発表年月日	会場	学会名	演題
平成26年 7月18日	和歌山県立医学大学 紀三井寺キャンパス	第46回日本医学教育学会	大学病院初期研修における地域基盤型 救急医療教育の試み
平成26年 12月(予定)	アクトシティ浜松 コンgresセンター	日本蘇生学会第33回大会	地方都市における研修医への 救急医療教育 ～救急医療教育室を立ち上げて～

発行年	発行月	書籍名	出版社名	備考
平成26年	3月	キャリアの軌跡 第42号	長崎大学病院 医療教育開発センター	医学生のための広報誌 P2
平成26年	4月	ほほえみ 第38号	済生会長崎病院	済生会長崎病院広報誌 P3
平成26年	6月	長崎県医師会報 第821号	長崎県医師 信用組合	郡市医師会だより 「長崎大学医師会」P80～83
平成26年	6月	iCrip magazine vol.29	メック	医学生のためのフリーマガジンP54
平成26年	7月	KOKUTAI	医学教育出版社	月刊 医師国試対策 P10・11
平成26年	9月	ポンペだよりVol.76.77	長崎大学病院 広報委員会	長崎大学病院広報誌 P1～4
平成26年	9月末 (予定)	iCrip magazine vol.30	メック	医学生のためのフリーマガジン
平成26年	10月 (予定)	長崎県医師会報	長崎県医師 信用組合	
平成27年	1月 (予定)	ほほえみ	済生会長崎病院	済生会長崎病院広報誌

# 済生会長崎病院・長崎記念病院でのアンケート結果 60名にアンケートを実施(任意抽出:回収率100%)

医師	看護師	薬剤師	技師	事務員	その他	計
14	20	5	12	8	1	60

職業	認知度	心境
医師	14名	知っている
看護師	20名	知らない
薬剤師	5名	計 60名
技師	12名	
事務員	8名	大変助かっている
その他	1名	助かっている
計	60名	変わらない
		あまりよくない
		未記入
		計
		60名

## フリーコメント抜粋

(医師)

- ・ 常勤医師の過剰な肉体的、精神的負担の軽減等の健康管理上の改善及び地域住民に対する切れ目のない充実した医療の提供が持続できますので助かっています。
- ・ 病院の活性化が出てきたように思います。当直帯での診療をしてもらうことにより当直医の負担が軽減されました。
- ・ 夜間も遅くまで外来業務を行っていただけることもありがたいです。
- ・ マンパワー:人手不足のなかで専門知識豊富な先生がいて頂けるだけでありがたいです。
- ・ 勤務医の負担軽減になっていますし、研修医の先生の勉強に少しでも役に立てばいいことだと思います。

(看護師)

- ・ 長谷先生が研修医の先生に説明されていることを聞いたり見たりしていることで、自分の勉強にもなります。
- ・ いろいろ何でもみてもらえているのがよい

(技師)

- ・ EBMに基づいた対応や最先端の対応に触れることができる。
- ・ 患者さんを助けたいという心が伝わってくるだけでなく、伝染してきます。
- ・ 研修医がファーストタッチを行うということで、検査オーダーにも影響があるかと思いましたが、指導医が付いてきちんと指導されているためか、変わらないです。
- ・ 午後外来及び夜間の診療体制が充実し院内だけでなく、地域住民の方も非常に助かっていると思います。

(薬剤師)

- ・ 今まで当院ではあまり使っていなかった処方内容などが参考になっています。

(事務)

- ・ 研修医の先生からの質問が非常に新鮮で再度勉強しなくてはとの思いが出ました。
- ・ 研修医が臨床の場に参加してくれることで、当院職員に「人材育成」をする意識が芽生えた。

学ぶべき改善点等

(看護師)

- ・ 患者さんに親切で優しく接しているので良いと思います。時間がかかりすぎの時もありますが良いと思います。
- ・ 対象患者がいない時等勉強になるのかと思う時もある。せっかく来てくれているのに申し訳ないと思う。
- ・ 今のところ救急医療教育室で学習したことがない。

(技師)

- ・ ほとんど接点がありません。
- ・ 内容を把握していない。
- ・ 直接的な接点が今のところ無いため、教育室の思恵を現時点では感じとれていない。
- ・ 常勤医と研修医のどちらが診察をしても支持を出されて私たちが検査を施行することに変わりはないから。

(事務)

- ・ 病院間のメリットデメリットはあるが、事務員としては特にない。